

Ⅱ 作物別作付（栽培）面積

1 水陸稲（子実用）

(1) 水稲

令和元年産水稲（子実用）の作付面積は146万9,000haで、前年産に比べ1,000ha減少した（表5）。

作付面積の動向をみると、昭和44年の317万3,000haを最高に、昭和45年以降は生産過剰基調となった米の需給均衡を図るための生産調整が実施されたこと等から、減少傾向で推移している（図4）。

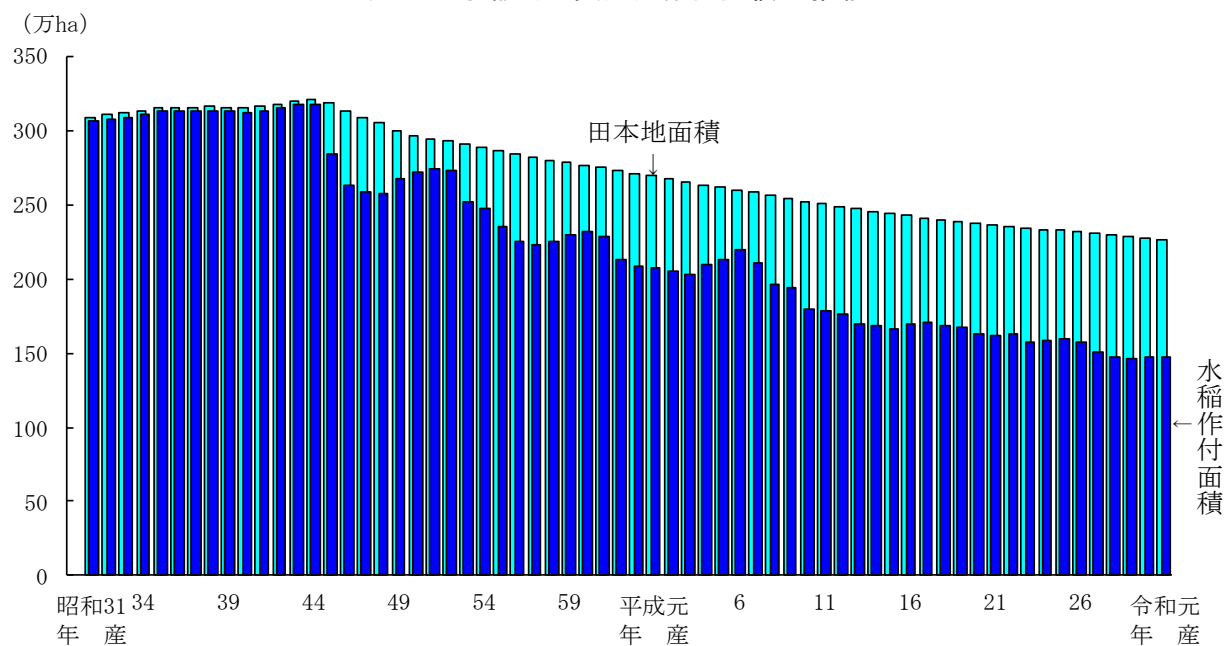
(2) 陸稲

令和元年産陸稲（子実用）の作付面積は702haで、前年産に比べ48ha（6%）減少した（表5）。

表5 令和元年産水陸稲（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	水陸稲計			水 稲			陸 稲		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	1,470,000	0	100	1,469,000	△ 1,000	100	702	△ 48	94
北 海 道	…	nc	nc	103,000	△ 1,000	99	…	nc	nc
都 府 県	…	nc	nc	1,366,000	0	100	…	nc	nc
東 北	…	nc	nc	382,000	2,900	101	…	nc	nc
北 陸	…	nc	nc	206,500	900	100	…	nc	nc
関 東・東 山	…	nc	nc	271,100	800	100	…	nc	nc
東 海	…	nc	nc	93,100	△ 300	100	…	nc	nc
近 畿	…	nc	nc	102,600	△ 500	100	…	nc	nc
中 国	…	nc	nc	102,100	△ 1,600	98	…	nc	nc
四 国	…	nc	nc	48,300	△ 1,000	98	…	nc	nc
九 州	…	nc	nc	160,000	△ 400	100	…	nc	nc
沖 縄	…	nc	nc	677	△ 39	95	…	nc	nc

図4 水稲（子実用）作付面積の推移



2 麦類（子実用）

(1) 4麦計

令和元年産4麦（子実用）の作付面積は27万3,000haで、前年産並みとなった（表6）。

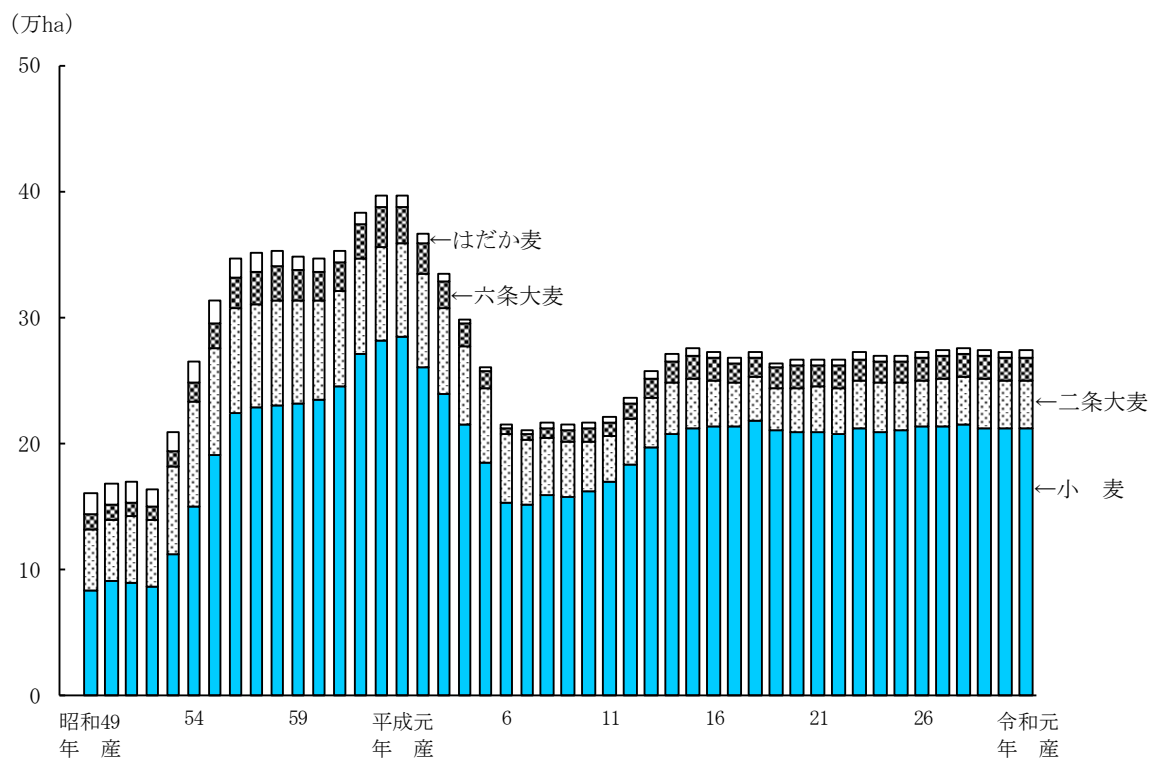
麦種別には、小麦は300ha減少したものの前年産並み、二条大麦は前年産に比べて300ha（1%）減少した。六条大麦は前年産に比べて400ha（2%）増加し、はだか麦は360ha（7%）増加した。

作付面積の動向をみると、作付農家数の減少、水田裏作の減少等により昭和48年に15万4,800haと過去最低となった。その後、麦の生産振興策が講じられたこと、米の転作作物として田作小麦が増加したこと等により、平成元年には39万6,700haとなった。平成2年以降は水田裏作の減少等により再び減少し、平成7年には21万200haとなった。平成8年以降は米の需給調整対策の推進等に伴い再び増加傾向で推移したが、平成14年以降はほぼ横ばいとなっている（図5）。

表6 令和元年産4麦（子実用）作付面積（田畑別）

区 分	計			田			畑			
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比	
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	
4 麦 計	273,000	100	100	172,300	1,000	101	100,800	△	800	99
小 麦	211,600	△	300	116,100	500	100	95,500	△	800	99
二条大麦	38,000	△	300	34,600	△	300	3,360		30	101
六条大麦	17,700		400	16,000	400	103	1,650	△	60	96
はだか麦	5,780		360	5,520	320	106	259		47	122

図5 4麦（子実用）作付面積の推移



(2) 麦種別作付面積

ア 小麦

令和元年産小麦の作付面積は21万1,600haで、前年産に比べ300ha減少したものの前年並みとなった。

このうち、北海道は12万1,400haで、前年産並みとなった。

また、都府県は9万200haで、前年産に比べ300ha減少した（表7）。

イ 二条大麦

令和元年産二条大麦の作付面積は3万8,000haで、前年産に比べ300ha（1%）減少した。（表7）。

ウ 六条大麦

令和元年産六条大麦の作付面積は1万7,700haで、前年産に比べ400ha（2%）増加した（表7）。

エ はだか麦

令和元年産はだか麦の作付面積は5,780haで、前年産に比べ360ha（7%）増加した（表7）。

これは、近年の健康志向の高まりから、需要が増加したためである。

表7 令和元年産4麦（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	4 麦 計			小 麦			二 条 大 麦			六 条 大 麦			は だ か 麦		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	273,000	100	100	211,600	△ 300	100	38,000	△ 300	99	17,700	400	102	5,780	360	107
北 海 道	123,300	200	100	121,400	0	100	1,700	40	102	17	x	x	149	85	233
都 府 県	149,800	0	100	90,200	△ 300	100	36,300	△ 300	99	17,700	400	102	5,630	280	105
東 北	7,690	△ 180	98	6,370	△ 200	97	14	9	280	1,300	20	102	7	△ 3	70
北 陸	9,660	△ 130	99	376	△ 27	93	2	△ 5	29	9,280	△ 100	99	x	x	x
関東・東山	38,100	△ 400	99	20,800	△ 100	100	12,200	△ 300	98	4,730	△ 80	98	x	x	x
東 海	16,800	500	103	16,000	500	103	4	1	133	709	16	102	x	x	x
近 畿	10,300	△ 100	99	8,430	△ 610	93	x	x	x	1,520	450	142	x	x	x
中 国	6,040	210	104	2,540	130	105	2,700	△ 40	99	x	x	x	707	x	x
四 国	4,920	80	102	2,270	100	105	x	x	x	x	x	x	2,630	△ 10	100
九 州	56,400	100	100	33,400	0	100	21,200	100	100	x	x	x	1,740	△ 10	99
沖 縄	x	x	x	16	△ 13	55	x	x	x	-	-	nc	-	-	nc

3 かんしょ

令和元年産かんしょの作付面積は3万4,300haで、前年産に比べ1,400ha（4%）減少した（表8）。

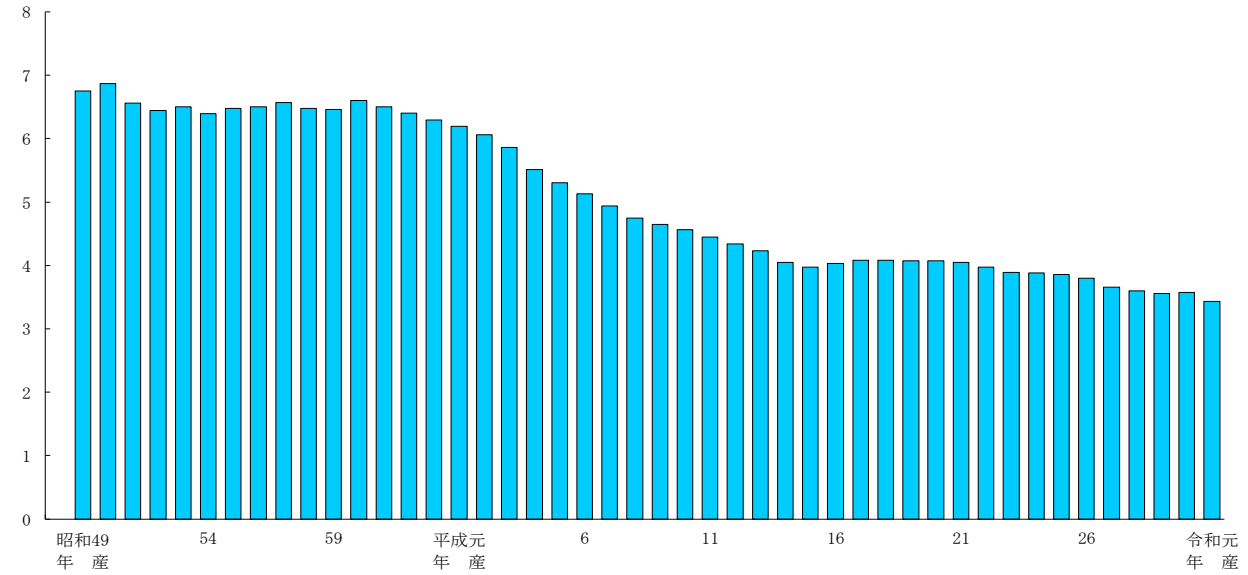
作付面積の動向をみると、昭和60年以降は減少傾向で推移している（図6）。

表8 令和元年産かんしょ作付面積

区 分	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
か ん し ょ	34,300	△ 1,400	96	2,520	△ 110	96	31,800	△ 1,200	96

(万ha)

図6 かんしょ作付面積の推移



4 そば（乾燥子実）

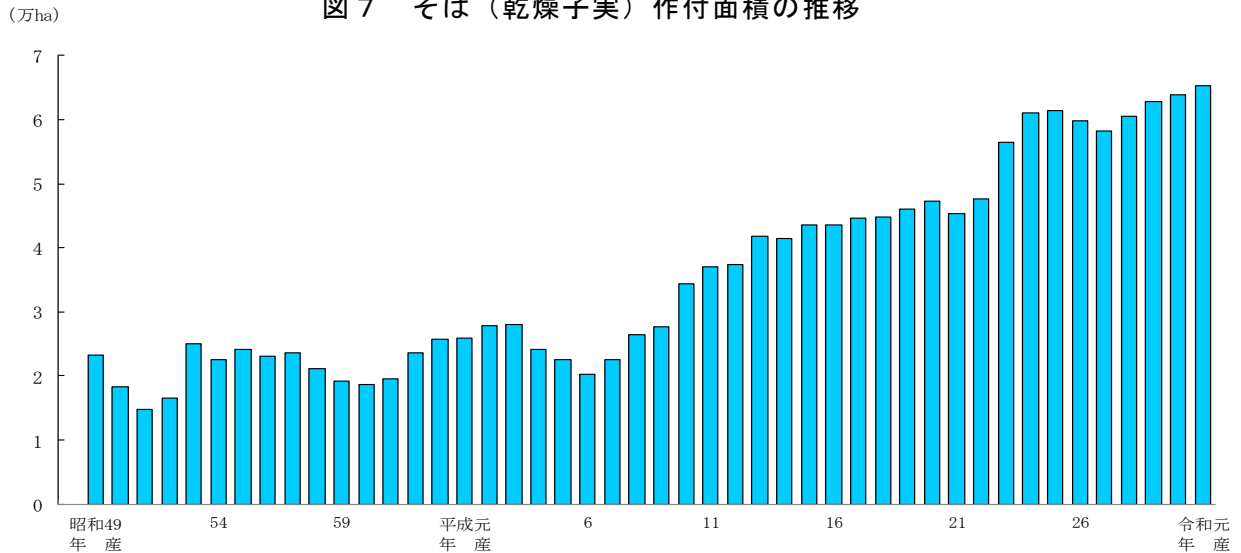
令和元年産そば（乾燥子実）の作付面積は6万5,400haで、前年産に比べ1,500ha（2%）増加した（表9）。

作付面積の動向をみると、昭和61年以降増加傾向で推移した後、米の生産調整目標面積の緩和措置等により平成4年から平成6年までは減少した。平成7年以降は米の需給調整対策の推進等により再び増加傾向で推移している（図7）。

表9 令和元年産そば（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	65,400	1,500	102	38,200	100	100	27,200	1,400	105
北 海 道	25,200	800	103	9,600	△ 90	99	15,600	900	106
都 府 県	40,100	600	102	28,600	200	101	11,600	500	105
東 北	16,900	400	102	12,900	300	102	3,950	110	103
北 陸	5,350	△ 170	97	4,790	△ 190	96	564	19	103
関 東・東 山	12,200	600	105	6,570	370	106	5,660	240	104
東 海	569	△ 50	92	468	△ 54	90	101	4	104
近 畿	919	16	102	887	17	102	32	△ 1	97
中 国	1,580	△ 40	98	1,360	△ 30	98	219	△ 4	98
四 国	119	△ 17	88	68	△ 9	88	51	△ 8	86
九 州	2,460	△ 100	96	1,530	△ 190	89	927	91	111
沖 縄	51	△ 2	96	-	-	nc	51	△ 2	96

図7 そば（乾燥子実）作付面積の推移



5 豆類（乾燥子実）

(1) 大豆（乾燥子実）

令和元年産大豆（乾燥子実）の作付面積は14万3,500haで、前年産に比べ3,100ha（2%）減少した（表10）。

作付面積の動向をみると、外国産大豆の輸入の増加により減少傾向で推移していたが、昭和53年から米の転作作物として田作大豆を中心に増加した。その後、昭和63年以降は減少傾向で推移し、平成6年には過去最低の6万900haとなった。平成7年から平成15年までは米の需給調整対策の推進等から再び増加傾向で推移し、平成16年以降は上下動のある動きとなっている（図8）。

(2) 小豆（乾燥子実）

令和元年産小豆（乾燥子実）の作付面積は2万5,500haで、前年産に比べ1,800ha（8%）増加した（表10）。

このうち、北海道における作付面積は2万900ha（全国の約8割）で、てんさい等からの転換により、前年産に比べ1,800ha（9%）増加した。

(3) いんげん（乾燥子実）

令和元年産いんげん（乾燥子実）の作付面積は6,860haで、前年産に比べ490ha（7%）減少した（表10）。

このうち、北海道における作付面積は6,340ha（全国の約9割）で、他作物への転換により、前年産に比べ450ha（7%）減少した。

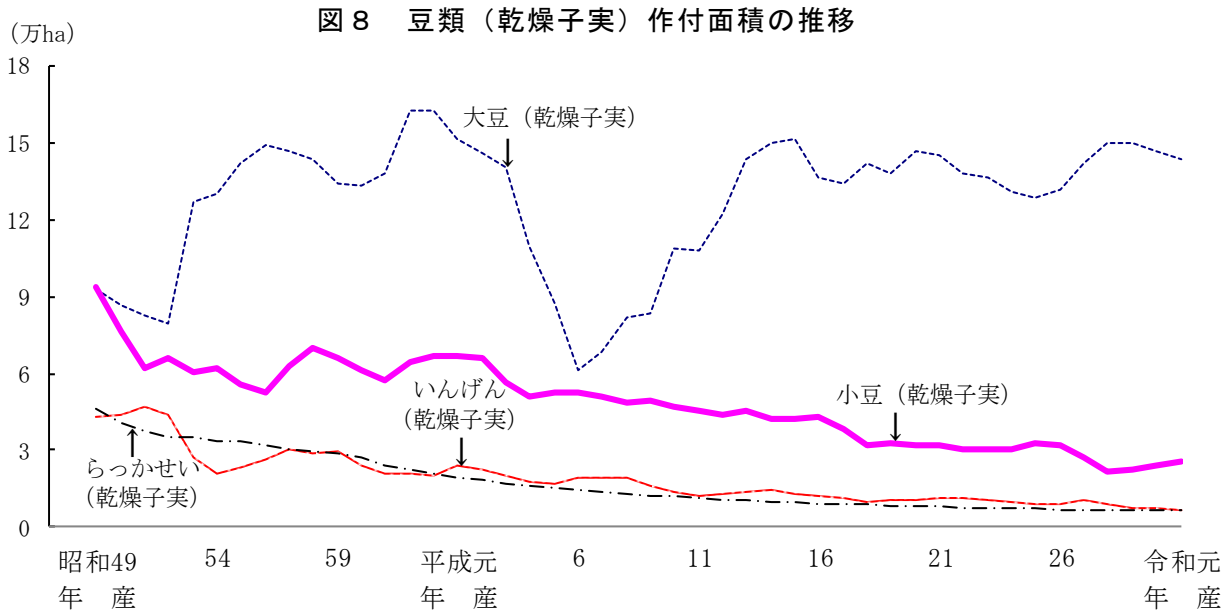
(4) らっかせい（乾燥子実）

令和元年産らっかせい（乾燥子実）の作付面積は6,330haで、前年産に比べ40ha（1%）減少した（表10）。

表 10 令和元年産豆類（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

区 分	大 豆（乾燥子実）											
	全国	北海道	都府県	東北	北陸	関東・東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
作付面積 (ha)	143,500	39,100	104,400	35,100	12,400	9,890	11,900	9,410	4,330	489	21,000	0
対前年差 (ha)	△ 3,100	△ 1,000	△ 2,200	△ 300	△ 600	△ 110	△ 100	△ 290	△ 200	△ 42	△ 400	0
対前年比 (%)	98	98	98	99	95	99	99	97	96	92	98	0

区 分	小 豆（乾燥子実）					いんげん（乾燥子実）		らっかせい（乾燥子実）		
	全国	北海道	滋賀	京都	兵庫	全国	北海道	全国	茨城	千葉
作付面積 (ha)	25,500	20,900	109	447	786	6,860	6,340	6,330	528	5,060
対前年差 (ha)	1,800	1,800	56	△ 6	79	△ 490	△ 450	△ 40	△ 16	△ 20
対前年比 (%)	108	109	206	99	111	93	93	99	97	100



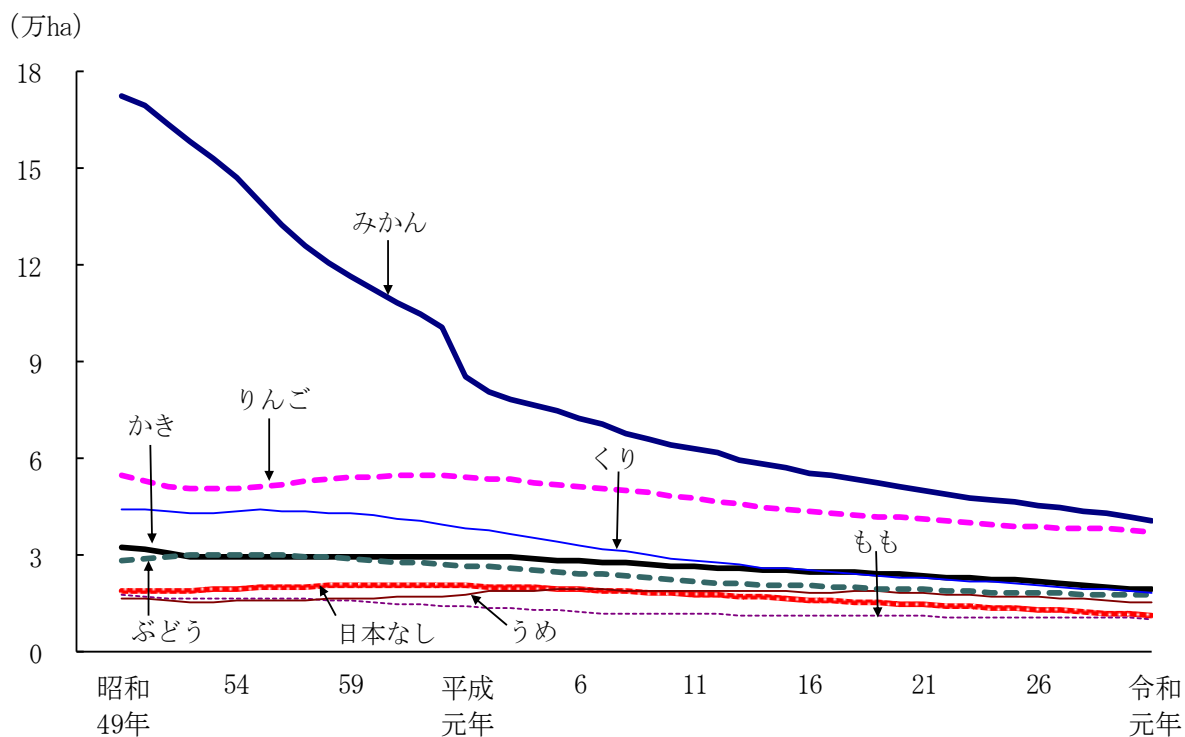
6 果樹

令和元年果樹の主な品目別の栽培面積は、みかんは4万800ha、りんごは3万7,400ha、かきは1万9,400ha、くりは1万8,400haで、それぞれ前年に比べ1,000ha（2%）、300ha（1%）、300ha（2%）、500ha（3%）減少した（表11）。

表 11 令和元年果樹栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較			区 分	栽培面積	前年との比較		
		対 差	対 比	対 差			対 比		
	ha	ha	%		ha	ha	%		
み かん	40,800	△ 1,000	98	す も も	2,930	△ 30	99		
その他かんきつ類	25,100	△ 400	98	お う と う	4,690	0	100		
り ん ご	37,400	△ 300	99	う め	15,200	△ 400	97		
日 本 な し	11,400	△ 300	97	ぶ ど う	17,800	△ 100	99		
西 洋 な し	1,510	△ 20	99	く り	18,400	△ 500	97		
か き	19,400	△ 300	98	パイナップル	580	15	103		
び わ	1,140	△ 50	96	キウイフルーツ	2,050	△ 40	98		
も も	10,300	△ 100	99						

図 9 主要果樹栽培面積の推移



7 茶

令和元年茶の栽培面積は4万600haで、前年に比べ900ha（2%）減少した（表12）。

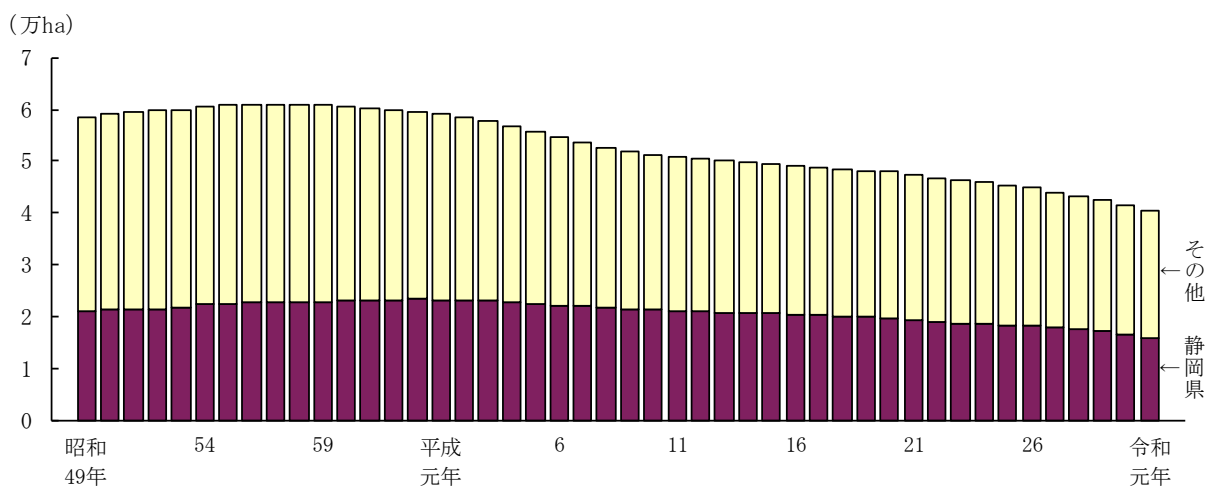
栽培面積の動向をみると、昭和50年代半ばまでは増加傾向で推移していたものの、それ以降は漸減傾向で推移している。

なお、主産地である静岡県においても、近年全国と同様に漸減傾向で推移している（図10）。

表 12 令和元年茶栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較	
		対 差	対 比
	ha	ha	%
茶	40,600	△ 900	98

図 10 茶栽培面積の推移



8 飼料作物、えん麦（緑肥用）

(1) 飼料作物の作付（栽培）面積計

令和元年産飼料作物の作付（栽培）面積は96万1,600haで、前年産に比べ8,700ha（1%）減少した（表13）。

ア 牧草

牧草の作付（栽培）面積は72万4,400haで、前年産並みとなった。

イ 青刈りとうもろこし

青刈りとうもろこしの作付面積は9万4,700haで、前年産並みとなった。

ウ ソルゴー

ソルゴーの作付面積は1万3,300haで、前年産に比べ700ha（5%）減少した。

(2) えん麦（緑肥用）

えん麦（緑肥用）の作付面積は4万1,600haで、前年産に比べ3,100ha（7%）減少した（表13）。

表 13 令和元年産飼料作物、えん麦（緑肥用）作付（栽培）面積

区 分	作付（栽培） 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比
	ha	ha	%
飼 料 作 物 計	961,600	△ 8,700	99
うち 牧 草	724,400	△ 1,600	100
青刈りとうもろこし	94,700	100	100
ソ ル ゴ ー	13,300	△ 700	95
え ん 麦 （ 緑 肥 用 ）	41,600	△ 3,100	93

注： 飼料作物とは、牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴのほか、
 その他飼料作物（飼料用米等）を含めた合計である。

図 11 飼料作物作付（栽培）面積の推移

